２０２３年９月３日（聖霊降臨後第１４主日、特定１７、A年）
牧師メッセージ
「わたしの後ろだ！」
（マルコによる福音書 8:27-38）

司祭ヨセフ太田信三

今日の福音は、「このときから」で始まります。それは、いよいよ主イエスが受難と復活について弟子たちに打ち明け始め、この「予告」と共にエルサレムでの十字架へと方向を転換させることを意味しました。主イエスがこの事を弟子たちだけに予告したのは、彼らが十字架の道を共に歩むべき仲間だからです。しかし、主イエスの話を聞いたペトロは主イエスを脇へと連れ出し、いさめはじめます。ユダヤ人たちが期待していたメシア＝救い主は、十字架上で虚しく死んでしまうような者ではありませんでした。ペトロも同様の常識や期待に囚われたままだったからです。「いさめる」と訳された単語は、「非難する」という意味を持ちます。主イエスの受難と復活は神の思い、神のご計画によるものでした。しかしペトロは、神のご計画を非難し、主イエスが進もうとする道に立ちはだかってしまったのです。

それゆえ主イエスはペトロに、「サタン、引き下がれ。」と叱りました。厳しい言葉です。しかしここで「引き下がれ」と言われている言葉は、実は愛情に満ちています。「引き下がれ」と訳されている言葉は「わたしの後ろだ！」という意味だからです。ペトロは、戦場で自分の力を過信して、敵の前に無防備なままに出ていく若者のようです。そのペトロを主イエスはご自分の後ろにまわして守ろうとしているのです。主イエスの後ろにいれば、神から離れさせようとするあらゆる力から守られます。主イエスの愛がここに表されています。さらに、「私の後ろに」という言葉は、「わたしについてきなさい」という、漁師ペトロへの召命の言葉と重なります。受難と復活へと歩みを新たにする今、主イエスはあらためて神のみ心を阻むサタンを退け、ペトロを召し出したのです。

今日の福音の直前の箇所（先主日の福音）で、ペトロは「あなたはメシア、生ける神の子です」と信仰告白をしました。彼は神の思いを受け入れ、信仰告白をすることができたときに祝福されました。しかし、その信仰はもろく儚いもので、すぐに神の思いよりも自分の思いに囚われてしまったのです。

イエスを「主」と呼ぶわたしたちにも、ペトロのように、主イエスを自分の思いや願いの中に収めようとする誘惑がいつもあります。主イエスは十字架上で死ぬメシアです。わたしたちは自分の思いを、主の思いへと変えていただかなければなりません。そのために日々、「わたしの後ろだ！」という主イエスの言葉に立ち返り、主イエスの後ろ姿を見つめながら歩んでまいりましょう。